

## 第 11 回(2013 年)

# マーサーMPA アワード受賞運用戦略の概要

## 目次

1. マーサーMPA アワード受賞会社一覧.....	1
2. マーサーMPA アワードとは？ .....	3
3. 国内株式(大型)総合部門受賞運用戦略の概要 .....	4
• 日興アセットマネジメント株式会社 .....	4
• シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社 .....	5
• アバディーン投信投資顧問株式会社 .....	6
• 大和住銀投信投資顧問株式会社 .....	7
• スパークス・アセット・マネジメント株式会社 .....	8
• ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント株式会社 .....	9
• 野村アセットマネジメント株式会社 .....	10
• 朝日ライフアセットマネジメント株式会社 .....	11
4. 外国株式部門受賞運用戦略の概要 .....	12
• MFS インベストメント・マネジメント株式会社 .....	12
• ラッセル・インベストメント株式会社 .....	13
• ウェリントン・インターナショナル・マネージメント・カンパニー・ピーティーイー・リミテッド .....	14
• 三菱UFJ信託銀行 .....	15
5. 外国債券部門受賞運用戦略の概要 .....	16
• ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社 .....	16
• ラッセル・インベストメント株式会社 .....	17
• ピムコジャパンリミテッド .....	18
6. 国内債券部門受賞運用戦略の概要 .....	19
• みずほ信託銀行 .....	19
• 三井住友信託銀行 .....	20
• 大和住銀投信投資顧問株式会社 .....	21
• ピムコジャパンリミテッド .....	22
7. 国内株中小型部門受賞運用戦略の概要 .....	23
• 東京海上アセットマネジメント投信株式会社 .....	23
• 三井住友アセットマネジメント株式会社 .....	24

• DIAM アセットマネジメント株式会社 .....	25
8. 国内株コア部門受賞運用戦略の概要 .....	26
• 日興アセットマネジメント株式会社 .....	26
• アムンディ・ジャパン株式会社 .....	27
• 株式会社 りそな銀行 .....	28
9. 国内株バリュー部門受賞運用戦略の概要 .....	29
• マニユライフ・アセット・マネジメント株式会社 .....	29
• 株式会社 りそな銀行 .....	30
• 三菱UFJ信託銀行 .....	31
10. 国内株グロース部門受賞運用戦略の概要 .....	32
• みずほ信託銀行 .....	32
• フィデリティ投信株式会社 .....	33
• 野村アセットマネジメント株式会社 .....	34

# 1

## マーサーMPA アワード受賞会社一覧

第 11 回マーサーMPA アワード受賞会社は次の表のとおりです(カテゴリー内はあいうえお順)。本書は、受賞運用会社から提供された情報をもとに、各運用戦略の概要をマーサーがまとめたものです(カテゴリー内での掲載順は、原則、情報提供の順です)。

<b>国内株式(大型)総合部門 (5年)</b>	
朝日ライフ アセットマネジメント	大和住銀投信投資顧問
アパディーン投信投資顧問	日興アセットマネジメント
シュローダー・インベストメント・マネジメント	野村アセットマネジメント
スパークス・アセット・マネジメント	ラザード・ジャパン・アセット・マネジメント
<b>外国株式部門 (5年)</b>	
ウエリントン・インターナショナル・マネージメント	三菱 UFJ 信託銀行
MFS インベストメント・マネジメント	ラッセル・インベストメント
<b>外国債券部門 (5年)</b>	
ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント	ラッセル・インベストメント
ピムコジャパンリミテッド	
<b>国内債券部門 (3年)</b>	
大和住銀投信投資顧問	みずほ信託銀行
ピムコジャパンリミテッド	三井住友信託銀行
<b>国内株式中小型部門 (3年)</b>	
DIAM アセットマネジメント	三井住友アセットマネジメント
東京海上アセットマネジメント投信	

サブカテゴリ部門(国内株式総合部門でも対象となっている運用手法です)

**国内株式コア部門 (3年)**

アムンディ・ジャパン	りそな銀行
日興アセットマネジメント	

**国内株式バリュー部門 (3年)**

マニユライフ・アセット・マネジメント	りそな銀行
三菱UFJ信託銀行	

**国内株式グロース部門 (3年)**

野村アセットマネジメント	みずほ信託銀行
フィデリティ投信	

注記

マーサーMPAアワードは過去の定量結果だけによる表彰であり、マーサーがマーサーの顧客に運用戦略を推薦する場合に利用する定性評価とは何の関係もないものです。運用戦略のリターン・データは運用報酬控除前であり、顧客が利用する際には、運用報酬の違いを考慮する必要がありますので、表彰対象と同じ期間に表彰された運用商品を使っている場合でも、表彰と同一の結果を受けられるわけではありません。また、表彰に利用した評価基準が適切な方法であると保証するものではありませんし、表彰のために使ったデータや計算が正しいものであると保証するものでもありません。マーサーはこのアワードを受けた運用会社について何の保証をするものでも責任を持つわけではありません。過去の実績は将来のリターンを保証するものではありません。

本書でまとめた各社の運用概要は真実であると思われる内容を掲載していますが、事実と異なるとしてもマーサーが責任を負うわけではありません。また、マーサーはこれらの運用を推薦、あるいは媒介・販売する意図を持って掲載しているわけではありません。

本件に関する問い合わせ先

資産運用コンサルティング(代表): 03-5354-1461 investment.japan@mercer.com

## 2

---

### マーサーMPA アワードとは？

マーサーMPA アワードとは、マーサー ジャパンが日本における企業年金あるいは機関投資家向けのコンサルティング・サービスを提供するために、収集・管理している円ベースの運用リターンの中から、優れた結果を達成した運用戦略を讃えるものです。賞の名前は、マーサーで運用リターンを分析するソフトウェアの名前(MPA=Manager Performance Analytics)をとったものです。

#### 選定基準

企業年金運用における主要なカテゴリー毎に5年あるいは3年で、トータル・リターンと代表的なインデックスに対するインフォメーション・レシオをそれぞれ基準化した数字を合計して、カテゴリー内の上位10%あるいは上位3位のファンドの多いほうを選定しています(なお、国内株小型、国内債券と外国債券はトータル・リターンのみ)。

国内株式(大型)は、総合部門以外にサブカテゴリーとして、スタイル別の3部門(コア部門、バリュー部門、そして、グロース部門)も表彰対象としています。

# 3

## 国内株式(大型)総合部門受賞運用戦略の概要

### 日興アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日興 AM 日本株エンハンスインデックス戦略
会社概要	<p>日興アセットマネジメントは、1999年4月、日興証券投資信託委託株式会社と国内外の年金運用で高い実績を誇る日興国際投資顧問株式会社が合併、発足し、50年超の歴史を有します。2013年3月現在、英国、米国、シンガポール、香港等海外現地法人等を含む従業員総数は約1,300名を擁し、15兆円を超える受託資産残高を運用しています。今回アワード受賞の日本株エンハンスインデックス戦略は、コア・アクティブ戦略、グロース戦略、バリュー戦略と合わせて、当社の主力商品となっております。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ベンチマークに対し中長期的に安定した超過リターンの獲得を目指すクオンツ運用です。</p> <p>当社独自開発の期待アルファモデル「N.ALPHA」および運用サポートモデル「N.シリーズ」を活用し、期待アルファ算出と信用リスクや取引コストも考慮した効率的なポートフォリオ構築を行います。</p> <p>「N.ALPHA」は、理論株価の上昇を捉えるリスクプレミアム・理論株価への収束を捉えるミスプライシング・投資家の行動特性を捉える行動ファイナンスといった3つの独立したアプローチから長期に亘り安定して有効な期待アルファを実現します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : TOPIX(配当込み)</p> <p>トラッキングエラー : 1~2%程度</p> <p>当社独自開発の最適化モデル「N.RISK-OPT」によりポートフォリオ構築を行います。</p>
付加価値の源泉	<p>「N.ALPHA」モデルによる個別銘柄選択が付加価値の源泉です。</p>

## シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

運用戦略名	シュローダー計量株式運用日本株式コア型 (QEP Japan)
会社概要	<p>シュローダー・インベストメント・マネジメントは、200 年超の歴史を有す英国の独立系金融グループの日本拠点です。当グループは、主に年金、投資信託やオルタナティブ投資などの資産運用業務に特化し、世界の投資対象市場を網羅するリサーチおよび資産運用能力を背景に、投資商品や金融サービスを顧客に提供しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ファンダメンタルズデータと行動分析を組み合わせ、モダンクオンツ手法でポートフォリオを構築し、リスクを低位に抑えつつ、あらゆる相場環境下で再現可能な収益の実現を目指します。一般的に入手可能な個別銘柄の基礎情報を計量的に分析し、樹形図分析を用いてバリューかつクオリティの高い銘柄選定を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>TOPIX をベンチマークとし、想定トラッキングエラー1.5%以下を目標としています。</p>
付加価値の源泉	<p>アクティブリターン目標をベンチマーク+1.0%(年率)に設定し、超過収益の源泉を個別銘柄選択 100%と考えています。</p>



## アバディーン投信投資顧問株式会社

運用戦略名	アバディーン日本株式
会社概要	アバディーン投信投資顧問株式会社は、英国を本拠地としてグローバルに資産運用業務を展開するアバディーン・アセット・マネジメント・グループの日本法人です。親会社のアバディーン・アセット・マネジメント PLC は 1983 年に設立され、現在は英国の代表的株式指数 FTSE100 にも採用され、ロンドン証券取引所上場の独立系運用会社です。2013 年 4 月末現在の運用資産残高は約 32 兆円で、世界 23 か国、31 拠点で幅広い資産運用サービスを提供しています。
運用手法の概要・特徴	企業訪問を通して企業調査を行うボトムアップ・アプローチを採用しています。最初に日本株式市場の全銘柄の中から、「企業の質」という観点で企業分析を行い、独自の投資ユニバースを組成します。次にそれらの銘柄を「バリュエーション」の観点から分析し、投資銘柄を絞り込んだポートフォリオを構築します。東京の日本株式運用チームが全員で継続的に企業調査を行い、合議制でポートフォリオを構築するチーム運用です。アナリストとファンドマネジャーの区分けはしていません。アバディーン・アセット・マネジメント・グループの調査リソースを幅広く活用し、クロス・カバレッジによりグローバルな視点から長期投資を行います。
ポートフォリオのリスク特性	TOPIXをベンチマークとしていますが、ベンチマークと乖離する投資配分となることを厭いません。トラッキングエラーの実績値は概ね4-10%程度で推移しています。
付加価値の源泉	個別銘柄選択(組入銘柄数は約 40 銘柄程度)を付加価値の源泉と考えています。

## 大和住銀投信投資顧問株式会社

運用戦略名	年金国内株式バリュート+ $\alpha$ 型
会社概要	<p>大和住銀投信投資顧問は、前身である大和投資顧問、住銀投資顧問、エス・ビー・アイ・エム投信が1999年4月に合併し設立。1973年大和投資顧問設立以来、40年に亘る投資顧問の歴史を有しております。「アクティブ運用による超過収益の安定的確保」を投資哲学とし、内外株式・内外債券・資産配分型・オルタナティブを運用する総合的な投信投資顧問会社です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>国内株式バリュート+<math>\alpha</math>型(TOPIX対応)プロダクトは、フローバリュートを重視した運用です。当プロダクトは、国内株式運用部バリュート+<math>\alpha</math>グループのファンドマネジャーにより運用されます。定量分析と、定性評価を組み合わせることにより「真の意味で割安」な銘柄を選択すると共に、運用プロセスを明確化、組織化することで、安定した超過収益を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: TOPIX(配当込み) 推定トラッキングエラー: 下限 3.0%(原則) 上限 7.0%</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択: 70% 業種配分: 30%</p>

## スパークス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	スパークス日本株式長期厳選投資戦略
会社概要	<p>SPARX は 1989 年7月の創業以来、独立系の投資顧問会社として日本株を中心に企業への個別訪問によるボトムアップ・リサーチを軸に資産運用を行っています。「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニー」になるというビジョンのもと、最良のインベストメント・インテリジェンスを投資家に届けることを目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>日本の上場株式全てを投資対象とし、長期にわたって保有が可能と考える 10-30 のコア銘柄に投資を行います。SPARX にとって、株式投資とは企業の一部を所有することと同じことであると考えています。創業以来、「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下、個別企業調査が株式投資においてリターンを最大化させると同時に最大のリスクヘッジになると考えています。当戦略では、魅力的な企業には以下のような共通点があると考えています。</p> <p>1. ビジネスモデルがシンプルで理解しやすい、2. 本質的に安全なビジネス、3. 負債が少なくバランス・シートが健全、4. 参入障壁が高いビジネス、5. 平均以上の ROE と安定した利益の成長、6. 短期的な景気動向に左右されずに安定してキャッシュフローを生み出している、7. 有能かつ株主利益を理解した経営陣</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標となるトラッキングエラーや期待収益率はありません。ただし、当投資戦略の代表ファンドにおける年率ベースでの実績トラッキングエラーは7%程度です。</p>
付加価値の源泉	<p>当戦略の追求するアルファの源泉は全てボトムアップ・リサーチに基づく純粋な個別銘柄選択です。</p>

## ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント株式会社

運用戦略名	ラザード日本株式ストラテジック
会社概要	<p>ラザード・アセット・マネージメント(米国ニューヨーク)は、160余年の歴史を持つ投資銀行であるラザード・フレール・アンド・カンパニー・エルエルシー(1848年設立)の投資運用サービス部門として1970年に設立されました。ラザード・ジャパン・アセット・マネージメント株式会社は、その日本拠点として1987年より営業を開始しています。2013年3月末時点のグループ全体の運用資産総額は約14.6兆円(1ドル94.02円で換算)です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ファンダメンタル分析を重視したボトムアップに基づく個別銘柄選択によってポートフォリオを構築します。</p> <p>運用チームが既成のセクター・業種の枠を超えた投資アイデアを創出します。個別銘柄を掘り下げるマイクロ分析に焦点をあてるだけでなく、業種を横断的に分析し、構造的な変化や、ビジネスモデルの変化などを広い視野で捕捉することを目指します。</p> <p>ベンチマーク(TOPIX)の業種構成にとらわれず、上昇余地が下落余地をはるかに上回ると予想する銘柄の中から、最も確信度の高い20~30銘柄のポートフォリオを構築します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>トラッキングエラーは運用上の制約として課しているわけではありませんが、過去の実績から5%~10%のレンジに収まると予想しています。</p>
付加価値の源泉	<p>主な付加価値の源泉は個別銘柄選択にあると考えています。パフォーマンスのおよそ80-90%を個別銘柄選択、残り10-20%を業種選択から得ることを目標としています。</p>

## 野村アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	野村 RAFI 日本株式
会社概要	<p>野村アセットマネジメントは、野村ホールディングス株式会社を持株会社とする野村グループの資産運用会社です。</p> <p>1997年10月、野村証券投資信託委託株式会社(1959年設立)と野村投資顧問株式会社(1981年設立)が合併し、日本を代表する資産運用会社として、早くから運用と顧客基盤のグローバル化に取り組み、海外への積極的な展開を図っています。</p> <p>企業理念として、「最高の付加価値の創造」「高度な専門性の追求」「信頼の獲得と社会への貢献」を掲げています。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日々変動する株価を用いず、ファンダメンタル指標のみでポートフォリオ・ウェイトを決定するファンダメンタル・インデックス®手法を具現化します。</li> <li>◆センチメントやノイズに追随しないことにより、中長期に安定的なリターン獲得を目指します。</li> <li>◆時価総額加重指数及び伝統的なアクティブ運用と異なるリターン特性を持ち、中長期的な株式ポートフォリオのリスク・リターン向上に寄与することが期待されます。</li> <li>◆低コストで中長期的に時価総額加重指数を上回る運用成果を目指します。</li> </ul>
ポートフォリオのリスク特性	<p>参考ベンチマーク: TOPIX (配当込み)</p> <p>目標超過収益率: 2% (年率)</p> <p>想定トラッキングエラー: 5% (年率)</p> <p>※想定トラッキングエラーによるポートフォリオ管理は行いません。</p>
付加価値の源泉	<p>ファンダメンタル情報に基づく個別銘柄選択 100%です。</p>

## 朝日ライフ アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	朝日ライフ 国内株式ボトムアップ運用
会社概要	朝日ライフ アセットマネジメント株式会社は、1985年7月に設立された朝日生命グループの投信投資顧問会社です。インハウス運用及び海外一流運用会社との提携により、多様化する年金等の顧客の資産運用ニーズに応えるべく、幅広い高付加価値プロダクトを提供しています。なかでも、『国内株式ボトムアップ運用』は、運用開始以来十数年にわたり一貫した投資哲学とチーム運用を堅持する当社の旗艦プロダクトの位置付けになっています。
運用手法の概要・特徴	企業調査をベースにしたボトムアップスタイルの国内割安株運用です。「良い会社を普通の価格で、普通の会社を安い価格で買う」を投資哲学として、会社の質と価格の間にミスマッチのある銘柄に投資します。良質な企業の質を株価が十分に反映していない銘柄に投資を行い、中長期で比較的大きな超過収益の獲得を目指します。組入れ銘柄数は、80銘柄程度です。
ポートフォリオのリスク特性	ベンチマーク： TOPIX(配当込み) 目標超過リターン： 5% 推定トラッキングエラー： 3~8%
付加価値の源泉	超過収益の源泉は、個別銘柄選択 100%です。

# 4

## 外国株式部門受賞運用戦略の概要

### MFS インベストメント・マネジメント株式会社

運用戦略名	MFS 外国株式運用
会社概要	MFS は、1924 年に米国マサチューセッツ州、ボストンで創業された運用専門会社です。1932 年には社内の調査部門を設立、以来長年に亘りオリジナル・リサーチに基づくボトムアップ運用の伝統を受け継いできています。2012 年 3 月末の受託残高は 3,477 億ドル(約 33 兆円)と、米国でも大手運用機関の一つとなっています。
運用手法の概要・特徴	企業の持続的な収益・キャッシュフロー成長こそが、中長期的な超過リターンに繋がるとの信念の下、MFS 独自のファンダメンタル・リサーチに基づくボトムアップ・アプローチにより、市場平均以上の利益成長力があり、相対的に割安な株価水準にある銘柄をいち早く発掘し、ポートフォリオを構築します(GARP 戦略)。世界の主要市場に配したリサーチ・アナリストによるグローバルな視点の企業分析を土台に、企業の持つ成長性の質に着目した銘柄選択、つまり一過性ではない安定的な成長、市況など外部要因に依存せず企業自身のファンダメンタルズ改善による成長を重視する運用を行っています。
ポートフォリオのリスク特性	ベンチマークと比べても絶対的なリスク水準が低い運用で、特に市場の下落局面で超過収益を獲得することが多い運用です。
付加価値の源泉	基本的には個別銘柄選択が付加価値の源泉と考えていますが、個別銘柄分析の前提に業種に対する見方が含まれる点を勘案すると「銘柄選択 80:業種配分 20」であると考えています。一方国別配分は銘柄選択の結果ですので付加価値の源泉とは考えていません。

## ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル 外国株式マザーファンド
会社概要	<p>設立：1999年3月9日                      資本金：16億950万円                      事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業                      登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、                      一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会                      (2013年3月31日現在)</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ラッセルは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。</p> <p>異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャー運用により、超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図りつつ、超過収益への貢献度が高い銘柄選択において、各運用機関の特性を最大に活かせるよう運用します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラッキングエラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択：70-85% 業種選択：0-5% 国別配分：15-25%                      これらの想定割合は、組入れた運用機関が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。</p>



## ウエリントン・インターナショナル・マネージメント・カンパニー・ピーティーイー・リミテッド

運用戦略名	グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)
会社概要	ウエリントン・インターナショナル・マネージメントは、米国最大級の独立系投資顧問会社であるウエリントン・マネージメント・カンパニー・エルエルピー(WMC)の関連有限責任会社として1995年に設立されました。WMCは従業員保有による非公開パートナーシップ制を採用し、資産運用を唯一の業務としています。2013年3月現在、グループ全体の運用資産は約7,844億米ドル(約74兆円)に達しております。
運用手法の概要・特徴	グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)は、企業が保有する資産の真の収益率と投下資本利益率の改善に着目したグローバル・コア・アプローチとして定義されます。運用プロセスではファンダメンタル調査を重視し、銘柄選択は特定の投資スタイルに偏向せず機動的に行います。ポートフォリオは短期的にはベンチマークに対してグロースまたはバリュエーの傾向を示しますが、恒常的あるいは意図的なスタイル傾向は、長期的にはありません。
ポートフォリオのリスク特性	投資目的は、3～5年の投資期間において、MSCIコクサイ指数に対し年率2%(報酬控除前)以上のリターンをあげることです。トラッキングエラーの目標値は設定しておりませんが、Barraモデルで通常年率3～6%程度の水準になることを想定しています。
付加価値の源泉	当運用はボトムアップ・アプローチによる銘柄選択を実践しており、国別配分およびセクター配分はボトムアップの銘柄選択プロセスの結果です。事後的な分析では超過収益の概ね30%が国別およびセクター配分に帰する部分であると考えています。

## 三菱UFJ信託銀行

運用戦略名	外国株式 第202ファンド(グローバルコア型)
会社概要	<p>三菱UFJ信託銀行は、企業年金分野で長年培ってきた高専門性やノウハウをもとに、企業年金制度の設計から資産運用・管理まで総合的なサービスを提供しております。</p> <p>また、当社では本邦最大級の資産運用機関として、国内外の株式や債券等の運用商品で運用実績や商品性の向上を図るとともに、市況の変化や顧客の運用ニーズを踏まえた商品の開発・提供に取り組んでいます。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当社外国株式における提携先である英国ベイリーギフォード社の投資助言に基づくグローバル運用プロダクトです。</p> <p>短期的な株価動向を予測するのではなく、個々の企業におけるファンダメンタルズ分析による個別銘柄選択を重視します。利益やキャッシュフローの成長を重視した銘柄選択を行うことで中長期での超過収益を狙います。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>推定トラッキングエラー：5.0%以下</p> <p>* ベンチマーク：MSCI-KOKUSAI インデックス(円ベース、税引前・配当込)</p>
付加価値の源泉	銘柄選択：100%

## 5

## 外国債券部門受賞運用戦略の概要

## ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	外国債券アクティブ運用
会社概要	ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント(以下 GSAM)は、ゴールドマン・サックスの資産運用部門として、1988年に設立されました。設立以来、大規模な買収等を行うことなく運用資産残高を伸ばしてきており、2013年3月末現在、世界約30拠点に1,900名超の社員を配し、世界の機関投資家、政府系機関、個人投資家向けに70兆3,406億円(7,481億米ドル、94円2銭にて換算)の資産を運用しております。
運用手法の概要・特徴	外国債券および通貨を投資対象とする多戦略型アクティブ運用です。付加価値の源泉を幅広く分散し超過収益機会の最大化を目指す一方、独自開発のリスク管理手法によるリスク管理を行い、長期的に安定的な超過リターンの獲得を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	目標トラッキングエラーは年率150bps程度。
付加価値の源泉	①デュレーション/イールドカーブ戦略、②国別配分戦略、③通貨配分戦略、④セクター配分戦略、⑤個別銘柄選択(国債/政府系機関債、MBS/ABS、投資適格社債等)

## ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル 外国債券マザーファンド
会社概要	<p>設立：1999年3月9日                      資本金：16億950万円                      事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業                      登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (2013年3月31日現在)</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ラッセルは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャー運用により、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラッキングエラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。</p>
付加価値の源泉	<p>デュレーション：35% イールドカーブ：15% 通貨配分：20%                      債券種別選択：20% 個別銘柄選択：10%                      これらの想定割合は、組入れた運用会社が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。</p>

## ピムコジャパンリミテッド

運用戦略名	ピムコ外国債券運用
会社概要	<p>PIMCO グループは 1971 年に設立された、グローバルに運用拠点を構える世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。</p> <p>2013 年 3 月末時点の PIMCO グループの受託資産残高は約 2.04 兆ドルとなっており、日本における受託資産額は約 9 兆 6,600 億円にのぼります。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>1) コアアプローチ: ベンチマーク並みにリスクをコントロールした上で、超過収益をあげることを目標とします。</p> <p>2) 短期的な売買に依らない、長期的なファンダメンタルズを重視した運用を行います。</p> <p>3) 超過収益源泉を可能な限り分散することで、特定の付加価値源泉から来るマイナスがポートフォリオ全体に大きな影響を及ぼさないような運用を志向します。</p> <p>4) 多様な超過収益源泉を取得することから来る、多様なリスクを管理するリスク管理システムで意図しないリスクの排除を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)に対して、年率 1.0-1.5%の超過収益を報酬等控除前で達成することを目標としています。</p> <p>また、推定トラッキングエラーは最大で年率2-3%で管理することを目標とします。</p>
付加価値の源泉	<p>中長期的に、トップダウン(デュレーション、イールドカーブ、通貨)戦略 50%、ボトムアップ戦略(セクター、銘柄選択、裁定取引)50%とバランスの良い付加価値を実現することを目標とします。</p>

# 6

## 国内債券部門受賞運用戦略の概要

### みずほ信託銀行

運用戦略名	国内債券クレジット・スプレッド
会社概要	みずほ信託銀行は、年金運用などを扱う公的機関や企業年金等、幅広い顧客に対して、さまざまな運用戦略のファンドを提供するとともに、顧客の基本的な資産配分や運用戦略の組み合わせに関するアドバイスなど、顧客の多様なニーズに合わせたサービスを提供しています。
運用手法の概要・特徴	<p>対国債スプレッドの伸縮が、信用力要因・市場要因で起こり得るとの認識から、これらに影響を与える評価項目を具体的に絞り込み、トップダウン・ボトムアップ両アプローチによる要因分析を行うことで、超過収益獲得の可能性が高まるものと考えています。</p> <p>以下の3点が当ファンドの特徴(強み)です。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「信用力重視」の銘柄選択</li> <li>2. 長期にわたるリサーチのノウハウ蓄積</li> <li>3. クレジット戦略では本邦最大級のファンド規模</li> </ol>
ポートフォリオのリスク特性	野村 BPI(総合)をベンチマークとし、金利リスクをニュートラルに保ちつつ、クレジットリスクに特化した戦略です。
付加価値の源泉	個別銘柄選択 100%でアクティブリターンを追求します。

### 三井住友信託銀行

運用戦略名	三井住友信託事業債(積極)型/S45
会社概要	三井住友信託銀行は、年金信託・証券信託の各種商品を通じて、受託資産運用・年金制度管理などの各業務分野においてサービスを提供しております。
運用手法の概要・特徴	ファンドマネジャーによるトップダウン分析とクレジットアナリストによるボトムアップ分析を融合したスプレッド戦略をベースとした債券種別調整・個別銘柄選択によってベンチマークを上回る収益率を目指します。クレジット市場のコンディション、セクター・個別銘柄の魅力度の比較、スプレッド期待リターン・リスク、クレジットリスクの分析を重視し、イグジットを見据えたセクター・個別銘柄の分散を確認・検討したうえでポートフォリオを構築します。
ポートフォリオのリスク特性	デュレーション、残存期間別構成比をベンチマーク(NOMURA-BPI 総合)並に維持します。また、個別銘柄の信用リスクについては主要格付会社のいずれかの格付がBBB一格以上とします。
付加価値の源泉	付加価値の源泉は個別銘柄選択(種別セクター戦略を含む)100%と考えています。

## 大和住銀投信投資顧問株式会社

運用戦略名	年金国内債券積極型 BBB
<p>会社概要</p>	<p>大和住銀投信投資顧問は、前身である大和投資顧問、住銀投資顧問、エス・ビー・アイ・エム投信が 1999 年 4 月に合併し設立。1973 年大和投資顧問設立以来、40 年に亘る投資顧問の歴史を有しております。「アクティブ運用による超過収益の安定的確保」を投資哲学とし、内外株式・内外債券・資産配分型・オルタナティブを運用する総合的な投信投資顧問会社です。</p>
<p>運用手法の概要・特徴</p>	<p>国内債券プロダクトの運用スタイルは、“金利予測及びクレジット判断等に基づくアクティブ運用”です。ファンダメンタルズ判断による金利およびボトムアップ分析に基づくクレジットの両面でのリスクをとることにより、超過収益の源泉を多様化し、中長期で安定した付加価値の確保を目指しています。組入れ債券の最低格付は BBB 格です。投資戦略決定では、マクロ/市場・投資環境シナリオをもとに、金利、クレジット、銘柄選択について投資魅力度を算定し、トータルリスク量および各戦略へのリスク配分を決定します。その後、個別銘柄を選択します。リスク管理は、ベンチマーク対比でのポートフォリオリスク管理に加え、個別銘柄のダウンサイドリスクを回避するためのリスク管理からなっています。</p>
<p>ポートフォリオのリスク特性</p>	<p>ベンチマーク: NOMURA-BPI 総合                      推定トラッキングエラー: 上限 1.25%、下限 0.25% (0.75% よりも高めを目標とする。)                      組み入れ債券の最低格付け: BBB 格以上</p>
<p>付加価値の源泉</p>	<p>金利要因(デュレーション、残存期間別構成比調整、及び国債種別): 約 50%                      債券種別等クレジット要因: 約 50%</p>



## ピムコジャパンリミテッド

運用戦略名	ピムコ日本債券コア運用
会社概要	<p>PIMCO グループは 1971 年に設立された、グローバルに運用拠点を構える世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。</p> <p>2013 年 3 月末時点の PIMCO グループの受託資産残高は約 2.04 兆ドルとなっており、日本における受託資産額は約 9 兆 6,600 億円にのぼります。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>1) コアアプローチ: ベンチマーク並みにリスクをコントロールした上で、超過収益をあげることを目標とします。</p> <p>2) 短期的な売買に依らない、長期的なファンダメンタルズを重視した運用を行います。</p> <p>3) 超過収益源泉を可能な限り分散することで、特定の付加価値源泉から来るマイナスがポートフォリオ全体に大きな影響を及ぼさないような運用を志向します。</p> <p>4) 多様な超過収益源泉を取得することから来る、多様なリスクを管理するリスク管理システムで意図しないリスクの排除を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークである NOMURA BPI に対して、年率 0.5-1.0% の超過収益を報酬等控除前で達成することを目標としています。</p> <p>また、推定トラッキングエラーは最大で年率 1-2% で管理することを目標とします。</p>
付加価値の源泉	<p>中長期的に、トップダウン(デュレーション、イールドカーブ、通貨)戦略 60%、ボトムアップ戦略(セクター、銘柄選択、裁定取引)40%とバランスの良い付加価値を実現することを目標とします。</p>

# 7

## 国内株中小型部門受賞運用戦略の概要

### 東京海上アセットマネジメント投信株式会社

運用戦略名	東京海上AM 国内株式スモール
会社概要	<p>東京海上アセットマネジメント投信株式会社(TMA)は1985年12月に設立された資産運用会社です。</p> <p>当社は、「独自の徹底的な調査と分析を投資の原点に置く」との一貫した運用哲学を全社員が共有し、多様なニーズに応える幅広いラインアップ、きめ細かな顧客サービス、コンプライアンスの遵守などにより受託者責任の完遂を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>トップダウン評価による投資テーマに基づき成長分野を絞り込みつつ、同時にボトムアップアプローチで選定した成長銘柄に集中投資することにより、中長期的に小型株ベンチマークをアウトパフォームすることを目指します。</p> <p>①銘柄リサーチ: トップダウンアプローチで投資テーマを設定し、そのテーマに沿って中長期成長分野と想定できるセクターまたはサブセクターを絞り込み、そこに企業調査を集中します。</p> <p>②ポートフォリオ構築: 小型株専任のファンドマネジャーは投資候補銘柄群(小型株リサーチリスト)から、レーティング、株価動向等を考慮して組入銘柄を選定し、それぞれの銘柄の組入れウエイトを決定します。ファンドマネジャーはレーティング情報に加え、短期的な視点(需給・モメンタム・市場センチメント)やポートフォリオ全体のリスク水準も考慮しポートフォリオ構築を行います。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : Russell/Nomura Small Cap Index</p> <p>目標収益率 : 年率 5.0%</p> <p>想定リスク水準 : 年率 15%程度(上限)</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、個別銘柄選択 100%です。</p>

## 三井住友アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	三井住友アセットマネジメント国内株式中小型
会社概要	<p>三井住友アセットマネジメント(SMAM)は、2002年12月に三井住友系保険会社3社と三井住友銀行の運用子会社が合併し誕生しました。「リサーチこそが付加価値の源泉」であるとの信念の下、業界最大級のリサーチ体制を構築しています。リサーチに基づく特徴あるマルチプロダクトを提供することにより、顧客の多様なニーズに対応します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当ファンドは、ボトムアップリサーチにより割安で成長性のある中小型株銘柄に投資するものです。</p> <p>独自の投資視点「Gro-Val Cha-In(Growth、Value、Change、Information)」を活用し、魅力度の高い銘柄を発掘します。</p> <p>リサーチについては企業への直接取材を行いません。</p> <p>3名のファンドマネジャーが年間1000社を超える取材活動をこなすことで、経営者の生の声や直近の情報をタイムリーに入手します。ミーティングはワン・オン・ワン形式を中心に行うことから、経営者との直接面談を通じて、企業の「本質」を把握することが可能と考えています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク：TOPIX(配当込み) スタイルインデックスの対応も可能です。</p> <p>目標トラッキングエラー：特に設定していません (BARRAベースで推定10～15%程度の水準)。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉として考えています。</p>

## DIAM アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	国内株式中小型リサーチアクティブ
会社概要	<p>DIAMは、1999年10月、第一ライフ投信投資顧問、興銀NWアセットマネジメント、日本興業投信の3社が合併して設立された資産運用会社です。『For The Customer』の精神のもと、グローバルなネットワークを活かし内外の顧客に対し運用サービスを提供します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>(大型株と比較して)市場の非効率性が高いと見られる中小型株銘柄に特化した銘柄選択を行い、中長期にベンチマークをアウトパフォームすることを旨とするアクティブ運用です。 アナリストによる個別企業のファンダメンタルズ分析と、それに基づくバリュエーション判断をベースにポートフォリオを構築します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークは Russell/Nomura Small Cap インデックス(配当込み)で、中長期的にベンチマークを上回ることを目指します。</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、ボトムアップリサーチに基づく個別銘柄選択です。</p>

# 8

## 国内株コア部門受賞運用戦略の概要

### 日興アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日興 AM 日本株エンハンスインデックス戦略
会社概要	<p>日興アセットマネジメントは、1999年4月、日興証券投資信託委託株式会社と国内外の年金運用で高い実績を誇る日興国際投資顧問株式会社が合併、発足し、50年超の歴史を有します。2013年3月現在、英国、米国、シンガポール、香港等海外現地法人等を含む従業員総数は約1,300名を擁し、15兆円を超える受託資産残高を運用しています。今回アワード受賞の日本株エンハンスインデックス戦略は、コア・アクティブ戦略、グロース戦略、バリュー戦略と合わせて、当社の主力商品となっております。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ベンチマークに対し中長期的に安定した超過リターンの獲得を目指すクオンツ運用です。</p> <p>当社独自開発の期待アルファモデル「N.ALPHA」および運用サポートモデル「N.シリーズ」を活用し、期待アルファ算出と信用リスクや取引コストも考慮した効率的なポートフォリオ構築を行います。</p> <p>「N.ALPHA」は、理論株価の上昇を捉えるリスクプレミアム・理論株価への収束を捉えるミスプライシング・投資家の行動特性を捉える行動ファイナンスといった3つの独立したアプローチから長期に亘り安定して有効な期待アルファを実現します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : TOPIX(配当込み)</p> <p>トラッキングエラー : 1~2%程度</p> <p>当社独自開発の最適化モデル「N.RISK-OPT」によりポートフォリオ構築を行います。</p>
付加価値の源泉	<p>「N.ALPHA」モデルによる個別銘柄選択が付加価値の源泉です。</p>

## アムンディ・ジャパン株式会社

運用戦略名	国内株式アクティブ運用 バリューストック
会社概要	アムンディ・ジャパン株式会社は、クレディ・アグリコル アセットマネジメント株式会社とソシエテ ジェネラル アセット マネジメント株式会社が合併して 2010 年 7 月 1 日に誕生した運用会社で、パリに本拠を置くアムンディ・グループの日本拠点です。当社は、その前身と併せ日本の運用ビジネスにおいて 40 年の経験と実績を有します。
運用手法の概要・特徴	利益対比で割安な銘柄に対して独自の調査に基づいた分析を施すことによって、バリュエーション修正が期待される銘柄とそうでない銘柄を判別します。その前者へ投資を行うことで超過収益の達成が可能であるというのが、本ストラテジーの超過収益に対する考え方です。この考えに基づいて高いバリュー特性を有するポートフォリオを構築しています。明確なプロセスを反復しながら、安定した超過収益の獲得を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	ベンチマーク: TOPIX 配当込み トラッキングエラー: 3~5% 当社独自の 10 業種分類で対ベンチマーク比で中立配分とし、当社独自のリスク管理ツールおよび BARRA を用いてファクターリスクを管理します。
付加価値の源泉	付加価値の源泉はファンドマネジャーによる銘柄選択効果のみに求めています。銘柄選択の際には利益対比での割安度合い、ならびにアナリストチームからの「アナリストレーティング」などのアウトプットを重視します。

## 株式会社 リそな銀行

運用戦略名	りそな市場型 A口
会社概要	<p>当社の信託財産運用部門は、1962年に大和銀行(現りそな銀行)の年金運用部門として創設され、以降約50年にわたり国内有数の年金運用会社として活動を行っています。その間、2002年3月に会社分割により大和銀信託銀行(後にりそな信託銀行に社名変更)として一旦独立しましたが、その後2009年4月にりそな銀行と合併し、新たなスタートを切っています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>バリューやグロースといった特定のスタイルにこだわることなく、投資家の期待値の変化がもたらす株価変動を予測することで、どのような局面でも安定した超過リターンの獲得を目指すファンドです。市場の効率性が高まるにつれ、企業情報の収集をベースにしただけの運用では、超過収益を達成することが困難になりつつあると考えられます。株価への情報の織り込み度を判断するために「市場コンセンサスの分析」を運用プロセスに組み入れた投資判断を通じて、優れたリターンの達成を目指しています。また、スタイルや投資基準について厳格な縛りを設けず、セクター特性に応じた投資機会の追求を行い、柔軟な切り口で銘柄選択を行っています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>幅広い投資機会を追求しており、結果としてリスクは分散されています(トラッキングエラーの中心値: 3%)。</p>
付加価値の源泉	<p>付加価値の源泉としては、業種配分(30%)、個別銘柄選択(70%)をイメージしています。</p>

# 9

## 国内株バリュ―部門受賞運用戦略の概要

### マニユライフ・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	マニユライフ日本株式クオンツ・アクティブ(バリュ―型)
会社概要	マニユライフ・アセット・マネジメントはカナダの生命保険会社 The Manufacturers Life Insurance Company を中核とするグローバル金融サービス企業、Manulife Financial の資産運用会社で、当社はその日本拠点です。運用拠点はカナダ、米国をはじめ、英国、日本、香港、中国など世界 17ヶ国に運用拠点を 300 名を超える運用プロフェッショナルを配置しています。中でも香港を中核として、アジアでは総勢 100 名を超える運用担当者を配置しています。株式・債券運用はもとより、社債を活用した LDI(負債対応運用)や、森林・農地の実物資産投資といった戦略も提供しています。また、成長著しいアジア社債、中国人民元運用にも強みがあります。約 23 兆円の運用資産を受託しています(2013 年 3 月末時点)。
運用手法の概要・特徴	独自の計量モデルを用いて個別銘柄の割安度合いを相対評価します。その割安度合いとリスクのバランスを考慮しながらポートフォリオを構築することによって、中長期的に市場平均を上回る収益の獲得を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	設定来運用実績(2003 年 1 月～2013 年 3 月末時点、年率換算値) 実績トラッキングエラー: 6.58%
付加価値の源泉	当該ストラテジーの超過収益率の源泉: ・銘柄選択 100%(定性的な判断は、計量モデルが捉えきれない要因を持つ銘柄への投資に対してのみ行います(例: 不祥事、増資・起債、上方・下方修正が強く見込まれる場合等))。



## 株式会社 リそな銀行

運用戦略名	リそな割安株(リサーチ) F口/リそな割安株(リサーチα) L口
会社概要	<p>当社の信託財産運用部門は、1962年に大和銀行(現りそな銀行)の年金運用部門として創設され、以降約50年にわたり国内有数の年金運用会社として活動を行っています。その間、2002年3月に会社分割により大和銀信託銀行(後にりそな信託銀行に社名変更)として一旦独立しましたが、その後2009年4月にりそな銀行と合併し、新たなスタートを切っています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>様々な理由により割安な状況に置かれた株式の中で、それら割安状況の解消が見込める銘柄に投資することで、高い超過収益の獲得を目指すファンドです。一般的に株式市場では有望株や優良株が注目されがちですが、当ファンドでは市場から嫌われている銘柄(不人気株、問題を抱えた株)に注目します。これら銘柄は問題点が解消された場合には不人気であった分だけ高いリターンが獲得できると考えています。また、特定のバリュエーションに囚われず、定性的な判断を重視して銘柄選択を行っていますので、万年割安株への投資が回避できるとともに、幅広い相場局面で超過収益の獲得が可能であると考えています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>収益構造の改革途上にある銘柄中心に投資していることから、財務レバレッジは高くなるケースが多く、企業規模もやや小型に偏っています。また、市場から嫌われている銘柄に注目した投資であることから、モメンタムの低い銘柄の保有比率が高くなる傾向があります。</p>
付加価値の源泉	<p>付加価値源泉としては個別銘柄要因70%、業種要因30%程度とイメージしています。</p>

## 三菱UFJ信託銀行

運用戦略名	国内株式 第32ファンド(割安型(ハイリスク))
会社概要	<p>三菱UFJ信託銀行は、企業年金分野で長年培ってきた専門性やノウハウをもとに、企業年金制度の設計から資産運用・管理まで総合的なサービスを提供しております。</p> <p>また、当社では本邦最大級の資産運用機関として、国内外の株式や債券等の運用商品で運用実績や商品性の向上を図るとともに、市況の変化や顧客の運用ニーズを踏まえた商品の開発・提供に取り組んでいます。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>「一時的に理論株価から乖離した株価が時間の経過とともに理論株価に修正される過程を捉える事で、超過収益の獲得が可能である」との割安株投資哲学の下、独自開発のモデル(※)により、各企業の株主資本と予想収益から理論株価を算出し、現在の株価と比較して割安と判断される銘柄に重点投資することで超過収益を狙います。</p> <p>(※)金融特化型シンクタンクとして設立された三菱UFJトラスト投資工学研究所(MTEC)によるサポートを受けた独自開発の企業価値評価モデル</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>推定トラッキングエラー：8.0%以下 * ベンチマーク：TOPIX(配当込)</p>
付加価値の源泉	<p>銘柄選択：100%</p>

# 10

## 国内株グロース部門受賞運用戦略の概要

### みずほ信託銀行

運用戦略名	国内株式リサーチ・グロース
会社概要	みずほ信託銀行は、年金運用などを扱う公的機関や企業年金等、幅広い顧客に対して、さまざまな運用戦略のファンドを提供するとともに、顧客の基本的な資産配分や運用戦略の組み合わせに関するアドバイスなど、顧客の多様なニーズに合わせたサービスを提供しています。
運用手法の概要・特徴	ボトムアップアプローチによるリサーチを通じて企業の潜在的な成長力を捉え、株式市場で十分な評価を得られていない段階で投資することにより、中長期的にベンチマークに対する超過収益の獲得を目指す成長型のアクティブファンドです。「長期的な視点」による企業分析・評価と、「健全な懐疑心」による市場へのチャレンジという二つのマインドセットを組織の理念として重視するとともに、個別銘柄選択に際しては、投資機会における確信度を高めるために「アナリストとファンドマネジャーとの間の活発な議論(=擦り合わせ)」を重視しています。
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベンチマーク: TOPIX配当込み</li> <li>・ 目標超過収益率: +3.0%</li> <li>・ 主なリスク管理項目: 推定トラッキングエラー10%以内(バーラモデル)</li> </ul>
付加価値の源泉	付加価値の源泉は、インハウスアナリストの企業調査に基づく潜在成長力評価をベースとした個別銘柄選択効果(定性100%)です。

## フィデリティ投信株式会社

運用戦略名	フィデリティ・ジャパン・グロース
会社概要	<p>フィデリティ投信株式会社は投資信託及び企業年金や機関投資家向け運用商品やサービスを提供しています。1969年に本邦に拠点を設け、日本企業の調査を開始。1990年より日本の年金向け運用業務に参入、1995年に証券投資信託委託業務免許を取得し、同年12月に最初の国内投資信託を設定しました。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当該運用戦略の特徴は以下になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社内外の多面的な情報ソースに基づくファンダメンタルズの分析と様々なバリュエーション指標やバランスシート分析によるスクリーニングから、新しいテーマや銘柄を継続的に発掘</li> <li>・中期的な収益成長が見込め、割安な銘柄が中小型株市場には多く存在しており、市場がその企業価値を認識する前の早い段階で発掘し、ポートフォリオに組み入れ</li> <li>・銘柄、業種の相対組入れ比率、ならびにトラッキング・エラーは基本的に、個別銘柄の選択の結果を反映。厳密な管理目標値の設定は行っていないが、継続的にモニタリングを実施</li> </ul>
ポートフォリオのリスク特性	<p>目標超過収益率：2.5～3.5%以上                      推定トラッキングエラー：通常6～10%</p>
付加価値の源泉	<p>ボトムアップ・アプローチによる個別銘柄選択が100%。</p>

## 野村アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	野村日本株式グロース
会社概要	<p>野村アセットマネジメントは、野村ホールディングス株式会社を持株会社とする野村グループの資産運用会社です。</p> <p>1997年10月、野村証券投資信託委託株式会社(1959年設立)と野村投資顧問株式会社(1981年設立)が合併し、日本を代表する資産運用会社として、早くから運用と顧客基盤のグローバル化に取り組み、海外への積極的な展開を図っています。</p> <p>企業理念として、「最高の付加価値の創造」・「高度な専門性の追求」・「信頼の獲得と社会への貢献」を掲げています。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆景気循環を乗り越えて高ROEを維持できる優良企業を特定し、長期投資を行います。</li> <li>◆短期(2~3年)程度の独自の成長機会を有する企業を発掘し、機動的に投資します。</li> <li>◆景気循環・市場環境に依拠せず、上記2つの成長に特化した調査活動により銘柄を選別し、超過収益獲得を目指します。</li> </ul>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: TOPIX (配当込み) (参考指数 Russell/Nomura Growth インデックス)</p> <p>目標超過収益率: 4% (年率) 想定トラッキングエラー: 8% (年率)</p> <p>※推定トラッキングエラー等による運用管理のための水準を意図したものではありません。</p>
付加価値の源泉	<p>ボトムアップリサーチに基づく個別銘柄選択 100%です。</p>

## 重要事項

マーサーとは、Mercer LLC、及び(又は)その関係会社を含むものとします。

© 2013 Mercer LLC. 無断転載禁ず。

マーサーの秘密情報及び専有情報が記載されており、マーサーが定めた当事者以外は使用することはできません。本書の内容の全部又は一部を、マーサーの書面による事前許可を得ることなく修正したり、販売したり、又は他の個人若しくは組織に提供したりすることはできません。

本書で明示される所見、評価、及び(又は)意見は、マーサーの知的財産であり、予告なく変更される場合があります。これらは、検討対象の投資商品、資産クラス、又は資本市場の今後の運用実績に関し、何らかの保証を付与することを意図するものではありません。また、過去の運用実績は、今後の結果を保証するものでもありません。マーサーのレーティングは、個別の投資助言ではありません。

本書にはお客様の個別の状況を考慮した投資助言は記載されておりません。予め適切な専門家の助言を得ることなく、又はご自身の状況を考慮することなく、本書の情報のみに基づいて投資決定を行なうべきではありません。

本書に記載されている情報は、第三者によるさまざまな情報源の中から得られたものです。本書の情報が信頼できるものであると見なされる限りにおいては、マーサーは独自に当該情報の検証を試みることはありません。したがって、マーサーは提供された情報の正確さに関する表明、保証を行なうことはなく、いかなる第三者によって提供されたデータの誤記、脱漏、誤りに関し、いかなる責任(間接的、派生的、付随的損害を含む)も負いません。



Mercer Japan Ltd  
Tokyo Opera City Tower 37/F,  
3-20-2 Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku  
Tokyo 163-1437  
Japan  
+813 5354 1560